



「アダプテーション」の実践と理論を研究

 文学部 かものがわ ひろのぶ
 英語文化コミュニケーション学科 教授 **鴨川 啓信**

 物語が形を変えて語り継がれる「アダプテーション」
 日本と欧米のコミックス研究など、新しい文学の形を探究
コメントできる
研究領域

イギリス文学

アダプテーション

コミックス研究

シェイクスピア

京都女子大学は、教員の研究活動や社会連携など“社会のための女子大学”の姿をお伝えするニュースレターを発信しています。今回は、英文学を中心にアダプテーション研究を行う、文学部 英語文化コミュニケーション学科の鴨川啓信教授をご紹介します。

■ 小説から映画や漫画へ。物語作品が時代や形を変えて語り直される文化現象「アダプテーション」を研究。

小説や漫画を読む人が減っていると言われます。しかし鴨川教授は「実験的な新しい試みが増え、今ほど作品の可能性が感じられる時代はない」と語ります。

鴨川教授は、物語が時代やメディアを変えて新たな物語として語り直される「アダプテーション」という文化現象を研究しています。小説から映画や漫画・アニメが作られるなど、異なる観客や文化に合わせて置き換えられ、多くの作品が生まれています。例えば、19世紀の小説『吸血鬼』から様々な設定に置き換えた小説・映画・漫画が生まれたり、小説『ハリー・ポッター』から映画・ゲーム・テーマパーク・玩具などが展開される現象もアダプテーションです。

鴨川教授は、シェイクスピアの戯曲『リチャード三世』を取り上げ、史実とフィクションの関係や、テレビ映画・アップデート映画・日本の漫画へのアダプテーションにおいて、特定の目的・時代背景・表現メディア・ジャンルの制約などに応じてキャラクターの人物像や物語のあり方や表現方法が変更されていることを論じました。このような変更が、個別の作品に独自の価値を与えていると述べ、アダプテーションは縮小反復ではなく拡張的展開であることを示しました。

■ 2027年度開講の「コミックス研究」では、日本と欧米のコミックスの表現方法やテーマを比較。

鴨川教授は、2027年度から、アダプテーション研究をもとにしたコミックス研究の授業を担当します。日本と欧米のコミックスを表現方法やテーマなどで比較研究し、表現メディアとしての可能性を考えます。

例えば、日本の少女漫画では人物の内面描写がコマの中に文字だけで出てきますが、アメリカのコミックスでは劇の独白と同じように吹き出しでセリフのように表現されています。

また日本の漫画では少年から青年になるといった成長がテーマに盛り込まれることが多く、アメリカでは事件の展開が重視され、悩みや成長などの内面的変化の描写が希薄です。

アダプテーションの理論化はまだ日が浅く、実践から理論へのフィードバックを考えると、日本の漫画は注目すべき事例です。シェイクスピアの『リチャード三世』を日本の少女漫画として置き換えた『薔薇王の葬列』では、手足の不自由なりチャード三世を両性具有に置き換えています。少女漫画というジャンルの中に置き換えた際の特徴的な変更が表れている例です。

鴨川啓信 (かものがわ・ひろのぶ) Profile

<https://gyouseki-db.kyoto-wu.ac.jp/kyuwuhp/KgApp/k03/resid/S001737>

略歴 1967年生まれ。1998年大阪大学博士(文学)課程修了。山口大学経済学部教授を経て、2017年より現職。

論文 「未完のリチャード - 『リチャード三世』の多様な語り直しに関して-」(単著/2020/Essays & Studies)

「Hamlet Updated - 舞台変更による物語更新について -」(単著/2017/Kwansai Review)

「揺れを許容する語り直し - 「橋の向こう側」と「殺し屋」と映画アダプテーションに関して-」

(単著 2016/Kwansai Review)

著書 『グレアム・グリーンの小説と物語の繰り返し』(単著/2016/英宝社)

<本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先>

- 京都女子大学入試広報課 岡橋・竹縄 TEL: 075-531-7054 FAX: 075-531-7222
- 京都女子大学広報デスク (プラニング・ホート内) 福嶋・井上 TEL: 06-4391-7156 FAX: 06-4393-8216
- 京都女子大学HP <https://www.kyoto-wu.ac.jp>